

# 「令和7年度舞鶴市幼児歯科保健調査」実施結果

- 調査目的 むし歯が急増する4,5歳児において、保育所（園）、認定こども園、幼稚園で実施されている歯科健診の結果等を通じ、むし歯罹患状況及び予防活動等を把握するとともに、今後のむし歯予防対策の推進に資する。（5年に1回実施）
- 対象児等 市内の保育所（園）、認定こども園、幼稚園に通う4,5歳児で、園での歯科健診を受診している児。  
むし歯予防活動アンケートについては、**市内保育所（園）3園、認定こども園（19園）、幼稚園5園の27園**に送付。全園より回答いただいた。
- 調査実人数 **1,033人** [4歳児507人、5歳児526人]
- 調査方法 歯科健診結果：指定のエクセルファイルへ入力し、電子メールにて提出  
アンケート：電子申請システム（Graffer）を活用し、オンラインにて回答
- 調査時期 令和7年10月～令和7年12月
- 調査内容 1. むし歯罹患状況、処置の状況について  
2. 各園でのむし歯予防活動等について

## 【調査結果】

### 1. むし歯罹患状況、処置の状況について

市内の幼稚園、保育所（園）、認定こども園の27園で実施された歯科健診の結果をもとに、下記の項目について調査した。

<調査項目>

- ①平均萌出歯数・・・生えている歯の平均本数
- ②永久歯が生えている児の割合
- ③むし歯罹患率・・・むし歯（処置歯含む）がある児の割合
- ④処置完了率・・・むし歯が全て処置できている児の割合（むし歯罹患児のみの完了率）
- ⑤平均むし歯本数・・・一人あたりの平均むし歯本数（処置歯含む）
- ⑥むし歯罹患児のみの平均むし歯本数
- ⑦ハイリスク児の割合・・・4本以上のむし歯を持つ児の割合（処置歯を含む、全体比）

#### a. 年齢別状況

##### ①4歳児歯科健診結果

(表1)

4歳児	調査対象児数 (人)	①平均萌出歯数 (本)	②永久歯が生えている児の割合 (%)	③むし歯罹患率 (%)	④処置完了率 (%)	⑤平均むし歯数 (本)	⑥むし歯罹患児平均むし歯数(本)	⑦ハイリスク児割合 (%)
全体（平均）	507	19.9	3.4	<b>17.0</b>	19.8	0.61	3.62	6.9
保育所(園)	48	19.8	4.2	<b>12.5</b>	0.0	0.69	5.50	6.3
こども園	362	19.9	3.3	<b>19.1</b>	20.3	0.67	3.51	7.7
幼稚園	97	19.9	3.1	<b>11.3</b>	27.3	0.37	3.27	4.1

##### ②5歳児歯科健診結果

(表2)

5歳児	調査対象児数 (人)	①平均萌出歯数 (本)	②永久歯が生えている児の割合 (%)	③むし歯罹患率 (%)	④処置完了率 (%)	⑤平均むし歯数 (本)	⑥むし歯罹患児平均むし歯数(本)	⑦ハイリスク児割合 (%)
全体（平均）	526	20.3	35.4	<b>22.8</b>	18.3	0.86	3.76	9.9
保育所(園)	48	20.5	43.8	<b>18.8</b>	33.3	0.85	4.56	8.3
こども園	341	20.3	38.4	<b>24.3</b>	14.5	0.83	3.41	9.4
幼稚園	137	20.1	24.8	<b>20.4</b>	25.0	0.93	4.54	11.7

集計結果から、平均萌出本数は4歳児で19.9本、5歳児で20.3本であった。永久歯が萌出している児は4歳児で3.4%だが、5歳児では35.4%と高率であることから、5歳児は第一大臼歯へのアプローチを開始すべき時期だということが分かる。

むし歯罹患率は4歳児で17.0%、5歳児で22.8%であったが、舞鶴市3歳児歯科健診におけるむし歯罹患率（令和6年度）が9.9%であることから、1年間で7.1%増え、2年後にはさらに5.8%増加していることがわかる。特に幼稚園はむし歯罹患率、平均むし歯数ともに最も増加率が高い。この時期の生活習慣や間食の管理が重要であるといえる。

処置完了率は4,5歳児ともに2割弱である。治療後、新たなむし歯ができたこと等により処置完了とならない児もあり、実際にはもう少し多くの児が歯科受診しているものと思われるが、未処置児が非常に多い。

全体の平均むし歯本数は1本を切っており少なく感じるが、むし歯罹患児平均むし歯数を見ると3.6本以上となっており、特に保育所（園）の4歳児では5.5本と非常に多い。また、ハイリスク児の割合も全体的に高く、特に幼稚園の5歳児では11.7%と、罹患児の半数以上がハイリスクであることが分かる。この結果から全体的にむし歯は減少傾向にあるという認識の裏で「むし歯ゼロ児」と「むし歯多数保有児」の二極化が進んでいることが裏付けられる。

## b. 経年比較（むし歯罹患率、平均むし歯本数の推移）

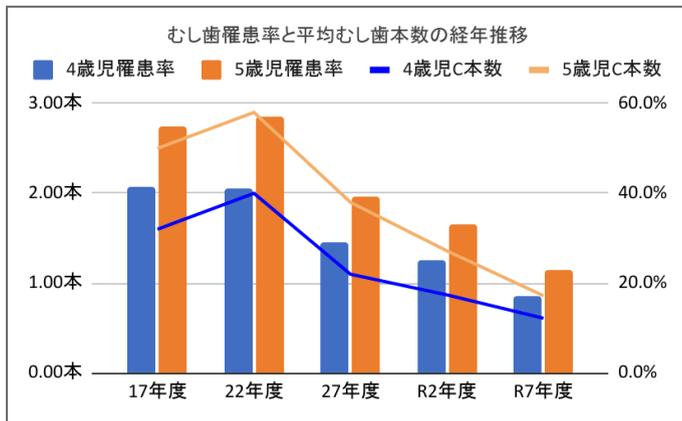
（表3）

むし歯罹患率	17年度	22年度	27年度	R2年度	R7年度
4歳児 全体	41.4%	41.1%	29.2%	25.1%	17.0%
4歳児 保育所（園）	44.4%	48.2%	35.1%	36.8%	12.5%
4歳児 認定こども園				26.1%	19.1%
4歳児 幼稚園	39.6%	35.9%	25.3%	21.6%	11.3%
5歳児 全体	54.8%	57.0%	39.4%	33.0%	22.8%
5歳児 保育所（園）	63.4%	63.6%	40.3%	31.6%	18.8%
5歳児 認定こども園				44.7%	24.3%
5歳児 幼稚園	50.5%	52.7%	38.7%	27.4%	20.4%

（表4）

平均むし歯本数	17年度	22年度	27年度	R2年度	R7年度
4歳児 全体	1.60本	2.00本	1.10本	0.87本	0.61本
4歳児 保育所（園）	1.70本	2.30本	1.20本	1.47本	0.69本
4歳児 認定こども園				0.90本	0.67本
4歳児 幼稚園	1.60本	1.80本	1.10本	0.70本	0.37本
5歳児 全体	2.50本	2.90本	1.90本	1.36本	0.86本
5歳児 保育所（園）	3.30本	3.40本	1.90本	1.13本	0.85本
5歳児 認定こども園				2.00本	0.83本
5歳児 幼稚園	2.00本	2.60本	1.90本	1.08本	0.93本

（グラフ1）

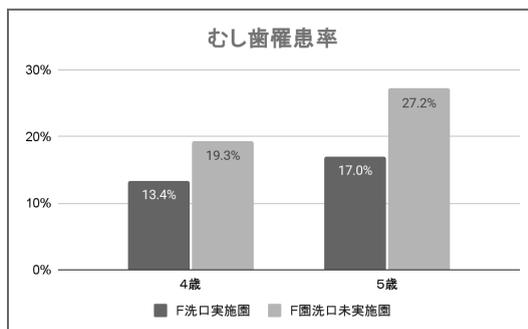


前回調査と比較すると、表3、4から、むし歯罹患率は4歳児が8.1%、5歳児が10.2%と順調に減少していることが分かる。また、平均むし歯本数も4歳児で0.26本、5歳児で0.50本減少しており、5歳児の減少がより顕著である。4歳から5歳への増加率においてもかなり減少している。

## c. フッ化物洗口実施の有無による比較

フッ化物洗口を実施している園（10園）と未実施園（17園）に分け、むし歯罹患率と平均むし歯本数を比較した。

（グラフ2）



（グラフ3）

